

食物アレルギーは皮膚から

Lack G Epidemiologic risks for food allergy JACI 2008 121 1331

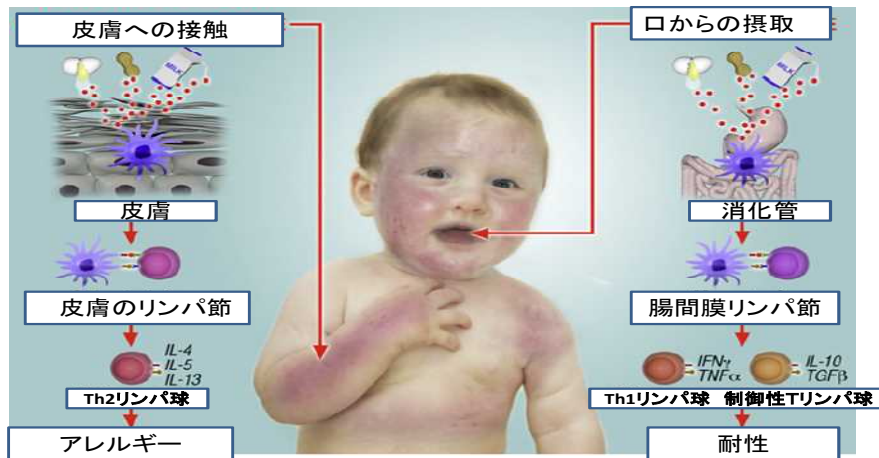
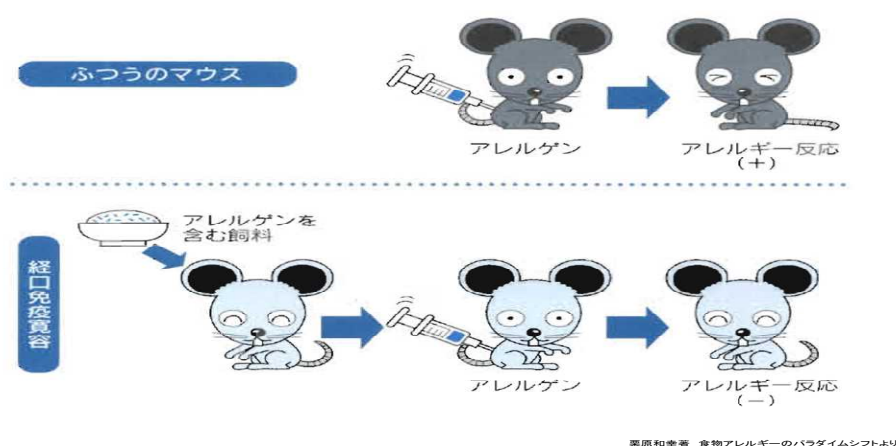


図 1

最近までアトピー性皮膚炎・湿疹の原因は食物であると考えられていました。ところが近年の研究によると逆であることが判明しました。上記の図のようにアトピー性皮膚炎・湿疹のある皮膚に接触した食物が、皮膚から浸入するとアレルギーを起こすTh2リンパが活性化され、アレルギーの方向に進みます。逆に経口から入った食物は消化管から吸収されて腸間膜リンパ節においてTh1リンパ球・制御性Tリンパ球を活性化してアレルギーを抑える方向に誘導します。このことからアレルギーを予防するために今までは離乳食においてアレルギーを起こしやすい卵・牛乳・小麦を遅らして始めるように指導されて

いました。しかし今は逆に早期に始めることが、却ってアレルギーを予防出来るのではと考えられるようになってきました。



図

2

動物実験ではある物質の注射（図2では背部に注射しているが、正確には腹腔内にアジュパントとともに注射することが多い）によって免疫（感作）された後に、その物質を経口摂取するとアレルギー反応を起こす（図2上）が、前もってその物質を食べさせておくと、同様の処置を受けてもアレルギー反応を起こさない（図2下）、すなわち経口免疫寛容が成立している。

（栗原和幸著 食物アレルギーのパラダイムシフトよ

り)